

2013年 心に留まったニュースをあげて
みました。2014年は悲しいニュースが
ないことを祈っています。

北海道内ニュース

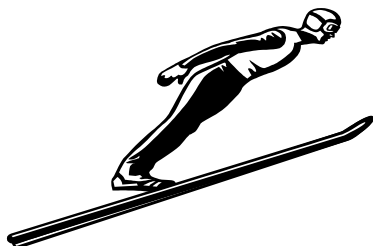
1月19日 元横綱大鵬氏死去



5月23日 三浦雄一郎氏80歳最高齢登頂成功



2月17日 高梨沙羅ちゃん女子
W杯優勝



6月～8月 高温多湿の記録的天候続く



3月2日 道東、道北を中心として道内防
風雪発生9人死亡



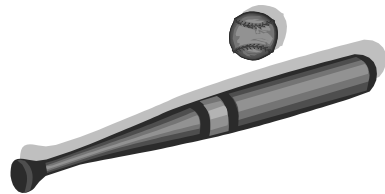
7月8日 泊原発再稼働を申請



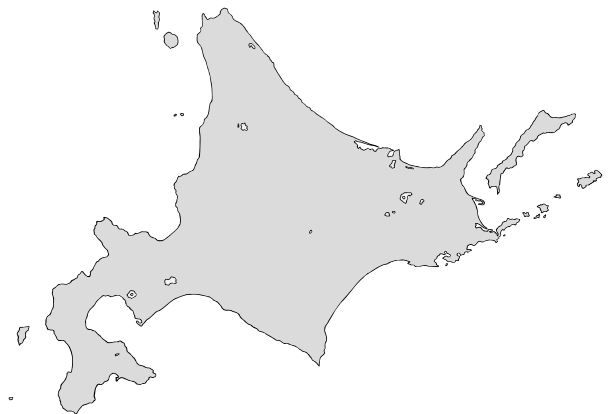
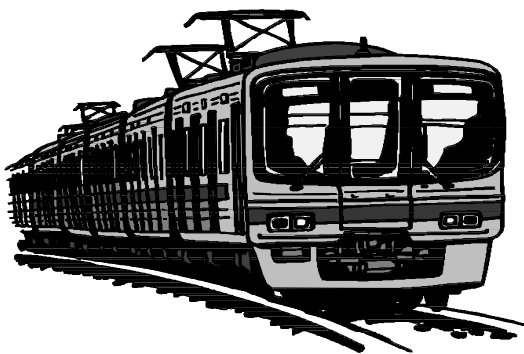
7月17日 桜木紫乃氏「ホテルローヤル」で直
木賞受賞



10月6日 日本ハム道内移転後リーグ最下
位に転落



8月以降 JR事故の多発とレール等検査結
果の改ざん



9月～10月札幌含め都市郊外で熊出没

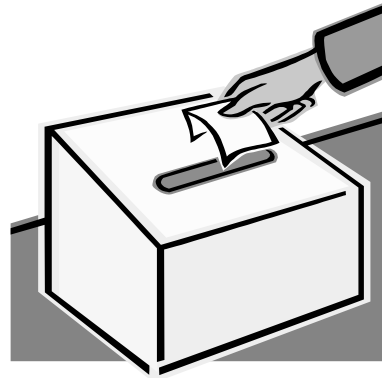


日本国内ニュース

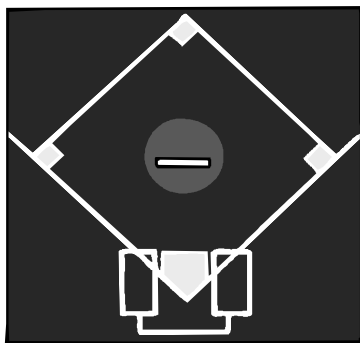
3月15日 TPP交渉参加表明



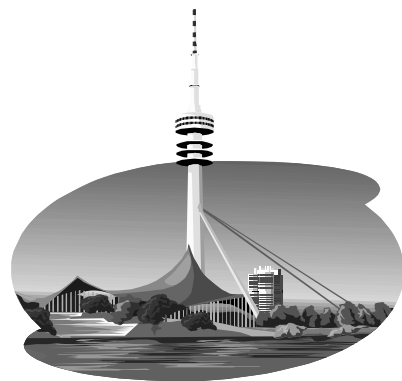
7月21日 参議院議員で自民党圧勝



5月5日 長島茂雄氏、松井秀喜氏国民栄誉賞授賞



9月7日 2020年東京五輪決定



6月22日 富士山世界遺産に登録



10月1日 消費税8%閣議決定



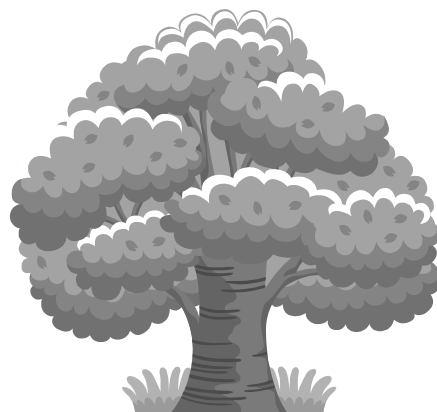
10月8日 プロ野球楽天田中将大投手(駒大
大苫小牧高出)シーズン21連勝
新記録



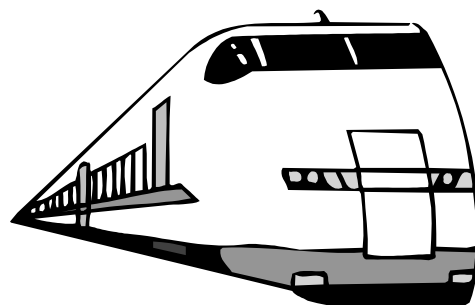
12月6日 秘密保護法の成立



10月22日 メニューの食材虚偽表示続々
発生



11月3日 楽天がプロ野球日本シリー
ズ初栄冠



国際ニュース

1月16日 北アフリカ南東部ハナメサスで邦
人人質事件発生 10人死亡



4月15日 アメリカボストンマラソンで爆発
物テロ発生



2月15日 ロシア南部に飛来被害
総額約30億円けが人
1,500人発生



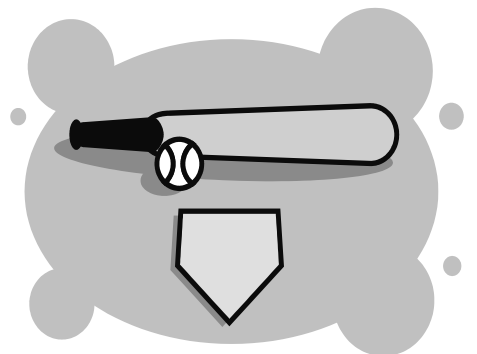
7月22日 英国キャサリン妃男児出産



2月4日 中国各地微小粒子状物質PM2.5
による大気汚染深刻化、6億人に
影響



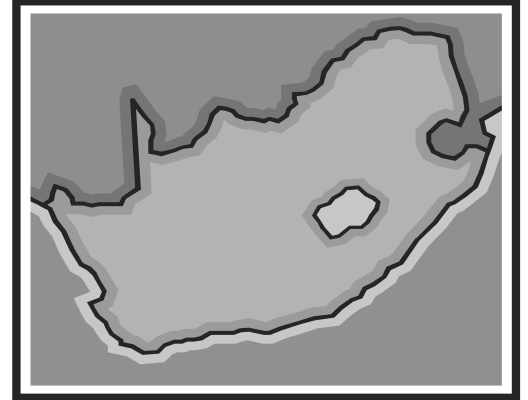
8月21日 大リーグ野手イチロウ日米通産
4,000本安打達成



9月30日 アメリカ大リーグレンジャーズ
ダルビッシュ有投手最多奪三振タ
イトル獲得



12月5日 南アフリカ元マンディラ大統領死去



10月16日 アメリカ駐日大使に元ケネディ大
統領の娘キャロラインケネディ氏
を指名



11月8日 フィリピン台風の猛威に襲われる



2013 年度理事会の開催報告

回数	日付 時間 場所	内 容
第1回	2013年 04 月 12 日(金) 16:00～18:45 JICA北海道国際センター 2階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. NPO法人化に伴う設立申請とその経過報告 2. 連絡会からの事務引継ぎと青年研修実績について報告 3. 2013 年度の事業計画と予算計画の提案と承認 4. 設立登記記念講演会開催の承認 5. 理事の役割分担と事務所整理および、インターネット接続の承認 6. パソコン、プリンターの整備および、ホームページ作成の承認 7. 会報の発行の承認
第2回	2013年 04 月 27 日(土) 15:00～18:00 JICA北海道国際センター 2階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2013 年度支援活動費計画の予算作成について承認 2. 2013 年度青年研修実施の企画書および、作成予算書について承認 3. ゆうちょ銀行預金口座開設について承認 4. 法人設立、設置届出書提出について承認
第3回	2013年 05 月 18 日(土) 15:00～18:15 JICA北海道国際センター 2階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会費の振込み方法について承認 2. 会則の「交通費」「旅費」「慶弔」細則規定について承認
第4回	2013年 05 月 29 日(土) 15:00～18:00 JICA北海道国際センター 2階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年研修事業「ミャンマー中小企業振興コース」企画書の審議について承認 2. 各種団体助成金応募申請の検討について承認 3. JICA集団研修「電力系統技術」の応募企画書作成について承認 4. 草の根技術協力事業へのアプローチの方針について承認 5. 設立記念講演会実行委員会の発足について承認

2013 年度全体会議の開催報告

回数	日付 時間 場所	内 容
第1回	2013年 08 月 24 日(土) 15:00～18:00 JICA北海道国際センター 2階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2013年度の事業計画と事業の中間報告 出前講座、世界ふれあいひろば、北海道国際協力フェスタ 青年研修「ベトナム農村振興コース」 2. 2013年度の事業予算と事業の収支中間報告
第2回	2013年 09 月 28 日(土) 15:00～18:00 JICA北海道国際センター 2階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年研修「ベトナム農村振興コース」の取組状況の報告 2. 世界ふれあいひろばのイベントについての(8月31日実施)報告 3. 会報誌発行にかかる報告
第3回	2013年 12 月 09 日(土) 15:00～18:15 JICA北海道国際センター 2階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 北海道国際協力フェスタ参加の報告 2. 青年研修「ベトナム農村振興コース」の業務完了の報告 3. 出前講座「国際交流」道都大学での実施完了の報告 4. 会報誌の名称の検討と会報誌原稿の募集依頼
第4回	2014年 02 月 01 日(土) 15:00～18:00 JICA北海道国際センター 2階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会報誌の名称 飛翔に決定(当初決定の名称を再検討、結果メールによる意見集約により決定) 2. 会報誌原稿の会員への再募集とJICAさんの幹部への寄稿依頼 3. 各種助成金への応募の検討

2013 年度の事業計画と活動経緯

実施予定月	活動名	活動内容	活動場所
随 時	情報公開	当 NPO 法人の活動内容の情報公開として、ホームページ、ニューズレターなどをインターネットにより広報活動を行い、会員及び一般市民等の国際協力や国際交流の理解を深める。 パンフレットを 1,000 部作成し、一般市民に HIC パンフレット配布により HIC 活動内容を宣布する。	JICA 北海道 ホームページは 随時更新
7 月 23 日 13:00～15:00	出前講座	北大所蔵のヒグマ・トランク・キットを使用して、ヒグマの生態を中心に講話し、その中で命の大切さや国際協力について触れた。 生徒たちは、ヒグマの実物の毛皮や頭骨などを見て、大変興味を示し、20 人以上から質問があった。更に、翌日生徒全員から礼状が寄せられた。	北広島市緑ヶ丘 小学校 4 年生 52 名 総合科目及び理科の授業として 実施
7 月 26 日(金) 15:00～17:00	設立記念 講演会	任意団体であった「北海道 JICA 帰国専門家連絡会」を発展的に解散し、より広範囲な活動を目指して「NPO 法人北海道インターナショナル協議会」として発足したことを記念に講演会を開催した。 1. 理事長挨拶 2. 来賓挨拶 JICA 札北海道所長 丹羽憲昭 3. 講演会 「北海道開発局の国際協力活動と経験」 北海道開発局・柴田哲史国際室長 「新生 HIC に求める国際協力のあり方」 JICA 北海道・寛克彦専門嘱託 4. 講演会出席者：35 名 懇親会出席者：20 名	JICA 北海道 ブリーフィング ルーム
7 月 29 日(月)	国際協力 出前講座 主催：拓殖大 学後援：NPO HIC	日本の国際協力の意義や独立行政法人国際協力機構の役割や仕事について、学生に対し広く理解を深める。また、世界の開発途上国の実情や日本との関係、国際協力について説明を行い、拓殖大学北海道短期大学の学生に対し異文化理解や国際化理解の促進と開発途上国との国際交流活動の積極的な参画を促し、その活動を通して地域社会の国際化や活性化に寄与することの意義についてレクチャーを行う。	拓殖大学 北海道短期大学
8 月 31 日(土) 10:00～17:00	2013 世界 ふれあいひ ろば	世界各国の文化紹介ブース、国際協力に関わる NGO や自治体の活動紹介ブース、各種アトラクションなどの交流コーナーを設け、札幌に滞在しているアフリカ、アジア、中南米などの世界各国から来ている研修員や留学生と地域市民との双方向の交流を行う。 HIC は、日本の文化紹介として、下記のブース出展を行う。 1. 書道作品展示及び書道実習指導 書道師範・鈴木竹華女史により、芸術的な作品展示や初心者に対する書道実習指導を行う。 2. 木彫り作品展示即売及び木彫り彫刻実演 荒木彫刻師による熊木彫り、フクロウ木彫り等の作品展示即売や木彫り実演披露を行う。	JICA 北海道 リフレ ブリーフィング ルーム

実施予定月	活動名	活動内容	活動場所
9月30日(月) ～ 10月17日(木)	青年研修 ベトナム農村振興コース	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者 20歳～35歳までの農村振興に携わる行政官および農民団体職員の幹部候補 17名 2. 案件目標： 将来のリーダーとして農村振興の課題解決を担う青年層の知識と意識の向上を図る。 3. 案件概要： 日本の農村地域における農村振興の行政施策や農民グループの取り組みを中心とした基本的な知識を学習させ、また現場見学や関係者との意見交換等を通じ当該分野にかかる日本の経験または社会の背景等を学習させる。 	JICA 北海道 および 札幌・深川近郊
10月20日(日) 10:00～16:00	北海道国際協力フェスタ 2013	<p>一般市民に世界の暮らしや文化に触れてもらい、国際協力に参加する機会を提供する。国際交流や国際協力の現場で活躍するNPO/NPOの活動を紹介するフェスタが開催される。</p> <p>HICは、会員が海外に派遣された際に、異文化の交流や技術協力を行った情報をパネル展により紹介するとともに、会員入会の勧誘を行う。</p>	札幌駅前 地下広場 北3条交差点 広場
11月29日(金) 13:00～15:00	出前講座 国際交流 2013 講演会	日本の国際協力の意義や独立行政法人国際協力機構の役割や仕事について、広く理解を深める。また、世界の開発途上国の実情や日本との関係、国際協力について説明を行い、道都大学の学生及び北広島市民に対し異文化理解や国際化理解の促進と開発途上国との国際交流活動の積極的な参画を促し、その活動を通して地域社会の国際化や活性化に寄与することの意義についてレクチャーを行う。	道都大学 道都大学生及び 北広島市民 200人
11月中旬予定	中学校 出前講座	日本の国際協力の意義や独立行政法人国際協力機構の役割や仕事について、中学生に対し深く理解を進める。また、国際協力に従事した経験をもとに、その経験談、世界の問題・課題、JICAや日本の国際協力、開発途上国の現状について講話する。	未定
1月下旬予定	国際協力 出前講座	日本の国際協力の意義や独立行政法人国際協力機構の役割や仕事について、学生に対し広く理解を深める。また、世界の開発途上国の実情や日本との関係、国際協力について説明を行い、北海道教育大学の学生に対し異文化理解や国際化理解の促進と開発途上国との国際交流活動の積極的な参画を促し、その活動を通して地域社会の国際化や活性化に寄与することの意義についてレクチャーを行う。	北海道教育大学 教育大学生 100人
1月下旬予定	小学校 出前講座	日本の国際協力の意義や独立行政法人国際協力機構の役割や仕事について、小学生に対し広く理解を深める。また、国際協力に従事した経験をもとに、その経験談、世界の問題・課題、JICAや日本の国際協力、開発途上国の現状について講話する。	未定
2月中旬予定	国際協力 出前講座	日本の国際協力の意義や独立行政法人国際協力機構の役割や仕事について、学生や市民に対し広く理解を深める。また、世界の開発途上国の実情や日本との関係、国際協力について説明を行い、酪農学園大学学生及び江別市民に対し異文化理解や国際化理解の促進と開発途上国との国際交流活動の積極的な参画を促し、その活動を通して地域社会の国際化や活性化に寄与することの意義についてレクチャーを行う。	酪農学園大学 酪農学園大学 学生及び江別 市民 100人

実施予定月	活動名	活動内容	活動場所
2月下旬予定	農業開発 出前講座	20 日本の国際協力の意義や独立行政法人国際協力機構の役割や仕事について、学生に対し広く理解を深める。また、世界の開発途上国の実情や日本との関係、国際協力について説明を行い、八紘学園生に対し異文化理解や国際化理解の促進と開発途上国との国際交流活動の積極的な参画を促し、その活動を通して地域社会の国際化や活性化に寄与することの意義についてレクチャーを行う。～35歳までの農村振興に携わる行政官及び農民団体職員の幹部候補 17名	J 八紘学園 学生 30 人

世界ふれあい広場 2013 参加報告

日 時 2013年8月31日 主催および場所 J I C 北海道
 展示内容 ①書道作品展および書道実習指導 ②彫刻師による熊木彫り
 ブース来場者数 30名
 イベント応援者 6名(金川理事長、熊井副理事長、川畑理事、田代理事、山下理事、事務局向井)
 特記事項 9月1日朝HBCテレビニュースでイベントの報道、特に書道コーナーの人気が高かったと報道されました。

当会としての感想

1. 外国の人たちと明るくフレンドリーな話ができました。
2. 書道は、書道の先生で会員の「鈴木千賀子」さまに指導をお願いしました。当初は、漢字1字程度の体験書道を考えていましたが、外国の人たちの名前をひらがな、カタカナで書き方の指導し、好評でした。
3. 彫刻コーナーは、木彫り彫刻像に外国の人たちも興味をもち、責任者に熱心に質問もしていました。
4. 素晴らしい企画となり、来年も引き続き参加しふれあいを大切にします。



熱心な指導です



記念写真も撮りました

JICA 青年研修事業

「ベトナム農村振興コース」に従事しての省察

HIC 副理事長 熊井 敬明

はじめに

北海道インターナショナル協議会（HIC）は NPO 法人として平成 25 年 4 月に産声を挙げた。その前身の「北海道 JICA 帰国専門家連絡会」は、法律に定めた法人格を持たない任意団体であった。そのため、「権利能力なき社団」とも言われ、社会的信用度が低く、また収益事業として官公庁などから公共事業の受託に難しさが増してきていた。そのことから、時代の流れに的確に対応できるような組織に体質改善を行うため法人格へ移行した。

前身団体は、JICA が公告する青年研修業務の 6～7 つコース案件の中から、定常業務として毎年 1 案件を受託してきた。NPO 法人の新組織として、収益事業となる青年研修業務の受託に向けた企画書の立案業務の取り組みにおいて、法人格へ移行と同時に前身団体の専従者が逃奔するというハプニングに見舞われたため、事務引継がないまま何もわからない状況から取り組む羽目になった。

応募した青年研修事業の審査決定通知を受け、研修業務実施の取っ掛かりから完了に至るまでに従事して感じたことを省察する。そして、HIC 会員が実務担当者として初めて研修業務に取り組む際の参考資料になれば幸いである。

1. JICA 青年研修事業とは何か

HIC 会員において、JICA 青年研修業務に直接関与した当事者以外は、その内容を良く知る人は少ないと思うので、JICA ホームページから青年研修業務の主要箇所を抜粋して紹介する。青年研修事業は、募集公告により本事業に協力を希望する公益法人、NGO、NPO

などの団体から提出された実施提案書の審査を経て委託される。

1-1. 青年研修事業の概要

技術協力の一環として、アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中東などの開発途上国から将来の国づくりを担う青年たち（20 歳～35 歳程度）を日本に招き、専門分野についての基礎的な研修を行い、将来の国づくりを担う若手人材の知識や意識を向上させることを目的としている。

また、日本の技術の裏側にある日本の歴史や経験、文化や社会的背景を理解することにも重点を置いている。このプログラムは、各地域の特性、専門性を活かした分野別研修、分野に関係する日本人との交流などから構成される 18 日間で関係団体の協力を得て行われている。

研修の主な専門分野は、①教育、②保健医療、③社会福祉、④行政、⑤経済、⑥地域振興、⑦農業、⑧環境保全、⑨情報通信技術、⑩平和構築など多岐にわたっている。

1-2. 平成 25 年度 JICA 北海道による公告の青年研修事業

平成 25 年度に JICA 北海道から公告された青年研修事業は、表-2 に示すとおりの 7 つの案件であった。公告案件の中から、HIC がどのコースに応募するのが適切かについては、過去の実績を勘案して選定した。

HIC 前身組織が過去に受託した実績の分野は、農業振興、環境保全、中小企業振興、観光振興があったことから、HIC に相応しい案件としてベトナム農村振興コースおよびミヤ

ンマー中小企業振興コースの2件を選定し、競争する他団体に引けをとらないと自負する企画書で応募したが、結果的にはベトナム農村振興コースだけが審査決定の通知を受けた。

過去の先例を踏まえると、応募者数の多い中で、限られた数少ないコース案件から複数案件を受託することは適わないのであろうと観察している。

表-1 平成25年度 JICA 北海道の公示の青年研修事業一蘭

国・地域	分野	案件名	研修員	受入予定時期
ベトナム	農業開発・農村開発	農村振興コース	17名	H25年9月30～10月17日
ミャンマー	民間セクター開発	中小企業振興コース	16名	H26年1月下旬～2月上旬
パキスタン	保健医療	感染症対策コース	12名	H25年12月以降
中央アジア・コーカス混成	教育	職業訓練教育コース	14名	H26年2月中旬～2月下旬
中央アジア・コーカス混成	ガバナンス	地方行政コース	13名	H26年2月上旬～2月中旬
アフリカ	教育	職業訓練教育コース	20名	H26年1月中旬～1月下旬
アフリカ	民間セクター開発	中小企業振興コース	16名	H25年12月初旬～12月中旬

1-3. 受託契約による研修業務の履行期間

青年研修の研修プログラムの履行期間は図-1のとおりで、受託契約による研修プログラムの期間は13日間となっている。

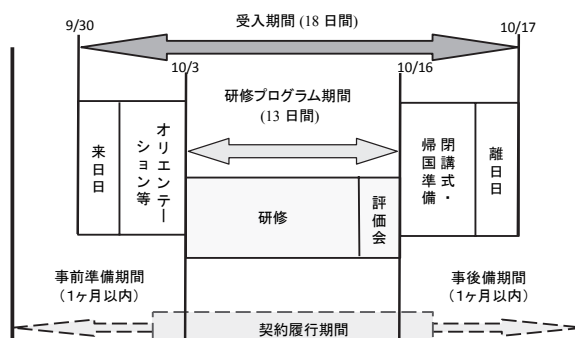


図-1 受託契約による研修プログラムの履行期間の内容

1-4. 受託業務の範囲および内容

受託機関が JICA と密接な連携のもとに研修実施および運営する業務内容は、表-2 に示すとおりである。また、研修終了後に業務完了報告書と経費精算報告書の提出が義務付けられている。

表-2 受託業務の範囲および内容

研修実施一般	講義 (演習・討議)	視察
① 日程・研修カリキュラムの作成・調整	① 講師の選定・確保	① 視察先の選定・確保と
② 研修員および同行者の移動に関する手配	② 講師への講義依頼文書などの発	視察依頼文書もしくは
③ 研修実施に必要な経費の見積および経費処理	出	同行依頼文書の作成・
④ 研修員選考への協力	③ 講義室および使用資機材の確	送付
⑤ JICA、その他関係機関との連絡・調整	認・手配	② 視察先への引率
⑥ 研修監理員との調整・確認	④ 講義テキスト、資機材、参考資	③ 視察謝金などの支払い
⑦ コースオリエンテーションの実施	料の準備・確認	④ 視察先への礼状の作成
⑧ 研修の運営管理とモニタリング	⑤ 講義など実施時の講師への対応	と送付
⑨ 研修員の技術レベルの把握	⑥ 講師謝金の支払い	
	⑦ 講師への旅費および交通費の支	

⑩ 各種発表会の実施	払い ⑧ 講師もしくは所属先への礼状の 作成・送付	
⑪ 研修員作成の各種レポートの分析・評価		
⑫ 研修員からの技術的質問への回答		
⑬ 評価会への出席、実施補佐		
⑭ 閉講式への出席、実施補佐		
⑮ 反省会への出席		
⑯ 講義、視察の評価		

1-5. 応募企画書にかかる品質要求

る企画書の記載事項は、表-3 のとおりである。

青年研修事業に応募の際に、品質要求され

表-3 応募企画書の品質要求内容

No	記載項目	記載事項
1	問題認識	<ul style="list-style-type: none"> 対象国の対象分野の現状の問題点および課題
2	達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 上記の問題および課題を踏まえた、本コースが研修をとおして達成すべき具体的な目標
3	プログラム編成方針（参加者資格要件の設定を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 上記の目標を達成するために、研修プログラムで編成すべき研修カリキュラムの具体的な方針 研修の対象となる青年研修員の具体的な要件
4	具体的日程案と成果	<ul style="list-style-type: none"> 研修プログラム（13日間）の具体的日程案と個々のカリキュラムで期待される具体的な研修成果
5	応募機関の専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> 対象国（地域）から研修員を受け入れるに当って特筆すべき具体的な知見・経験 受入対象分野に関して、研修プログラムを受託するに当たって特筆すべき具体的な知見・経験
6	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> 業務実施者（業務総括者を含む）、事務管理者などの実施体制（業務実施者、業務総括者などについては、対象国または対象分野に係る知見・経験および契約業務全般に関する知見・実績、研修業務に関する知見・実績）
7	類似の研修受入実績	<ul style="list-style-type: none"> 本コースの専門分野に関し、類似の研修を実施した過去5年間の具体的な実績

2. ベトナム農村振興コースの企画書の概要

公告されたベトナム農村振興コースの案件

2-1. ベトナムの農村振興コースの公告概要

概要は表-4 のとおりである。

表-4 ベトナム農村振興コースの案件概要

対象国	ベトナム社会主義共和国
対象者	農村振興に携わる行政官、農民団体職員
案件目標	将来のリーダーとして農村振興の課題解決を担う青年層の知識と意識の向上
案件概要	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農村地域における農村振興の行政施策や農民グループの取り組みを中心とした基本的

	<p>な知識を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場視察、関係者との意見交換などを通じ当該分野にかかる日本の経験または社会の背景などを学ぶ。
課題や協力の位置付けなど	<ul style="list-style-type: none"> ベトナム農業の問題点としては、普及員の絶対数の少なさ、不十分な金融へのアクセス、弱小な農民組織、安全性を含む農作物の品質の低さ、狭小な一戸あたりの土地（北部で平均 0.3ha、南部で平均 1.2ha）、1960 年代初頭から 1970 年代の終わりに整備された灌漑施設の老朽化、農業保険の不在がある。とりわけ、農業技術の研究開発を行っても、普及システムが弱いことから、農民の活動に結びついていない問題が深刻である。 農業生産性向上に加えて、農産物加工業などの農村部の地場産業育成、観光開発、自然資源の活用など、農村部の生計手段の多様化が重要であり、これらの課題に貢献する人材育成が求められている。
研修科目例	日本の農村地域の現状、行政支援体制、農業組合組織、加工/流通体制、地域資源の活用

注. JICA 北海道国際センターの公告の詳細は、下記の Website をご参照ください。

<http://www.jica.go.jp/chotatsu/domestic/sapporo/ku57pq000009v4m0-att/ku57pq00000aht8o.pdf>

2-2. ベトナム農村振興コースの企画書作成の要点

企画書の作成課題は、対象国の対象分野における現状の問題点を如何に認識し、その問題点を解決するためには何を中核としてカリキュラムを選定するかである。また、研修員が研修を通して課題解決に必要な達成すべき目標をどのように設定するかである。

優れた効果的な企画書を作成するためには、HIC の会員の中にベトナム滞在経験が豊富で、かつ農業分野の知識に明るく、課題を的確に掌握できる専門家がいれば理想的であるが、実際には望むべくもない。そこで、農村貧困を解決するための課題は何かを知る手段として、既に農水省の研究機関や、大学などでベトナム農村社会について調査研究している学術資料などの報告書から情報を収集することにした。

その取得情報のもとに、ベトナム農村における貧困要因を系統的に特定した上で、都市農村間の所得格差を是正するために役立つ振興策として、日本の農村地域において効果を発揮している農村振興の行政施策や農民組織の取組みに関する知識を学習させることによ

って、目標を達成させることができると想定する研修プログラムを立案した。

審査決定された提案企画書が、研修員からのニーズを直接調査したものではないだけに、果たして研修員の要求に対して高い満足度を与えることができるかどうかは不明である。

従って、審査決定通知後に、派遣される研修員が実際に何を求めているかについてアンケート調査を通して生の声を聴くことが可能であれば、優れた効果的な研修プログラムに改善できるのではないかと省察している。

2-3. 農村貧困の原因と農村振興の対策の要因を踏まえた研修カリキュラムの構成

研修カリキュラムの作成にあたり、ベトナム農村の貧困原因が複雑に絡み合った因果関係や相互関係の要因を特定するため、貧困の原因として想定する特定要因図を図-2 に示す。

その上で、貧困要因となっている原因のマイナス要因を消し去り、農村振興対策の糸口となる特定要因図を図-3 に示す。その特定要因を勘案して、本研修に織り込んだ研修カリキュラムの構成を図-4 に示す。ベトナムの大

大きな輸出額の農産物は、コーヒーに次いで米、ゴムと続いていることから、研修カリキュラムの構成要素としては、研修期間は非常に短く正味8日間と限られ、すべてを網羅することは不可能であるから、稲作を中心とした

品質向上や生産性向上に向けた栽培技術や品種改良、農業の機械化を中核とし、農村振興に欠かせない行政による安定的な農業経営の支援などの施策を織り込んだ。

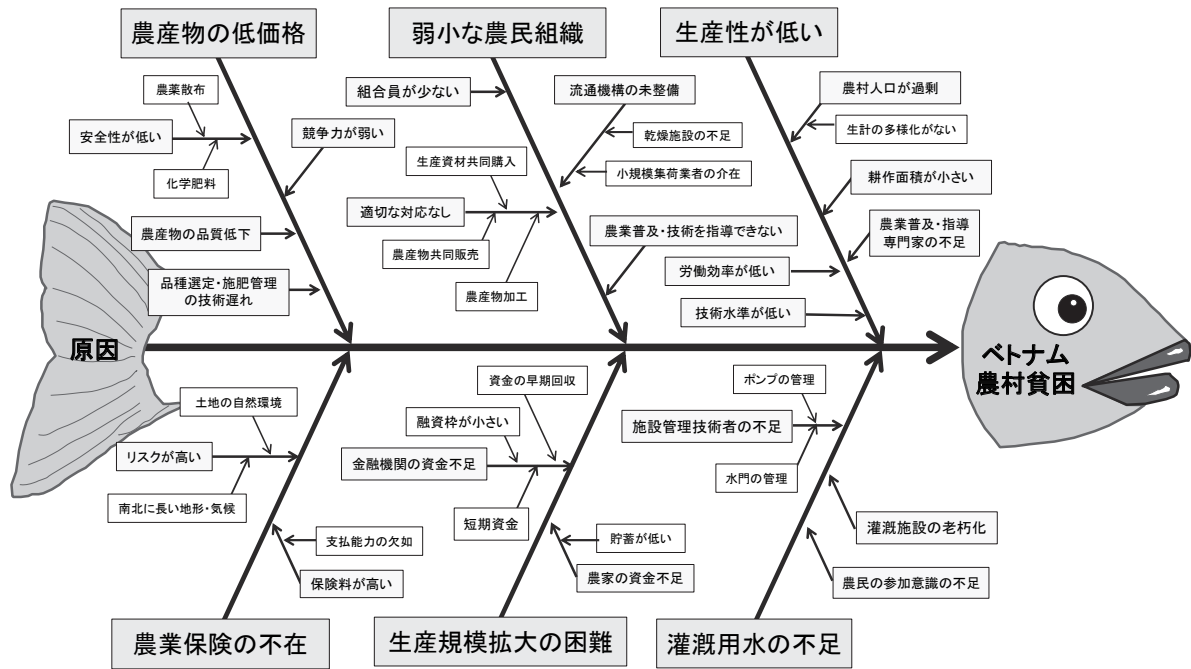


図-2 ベトナム農村における貧困の特定要因

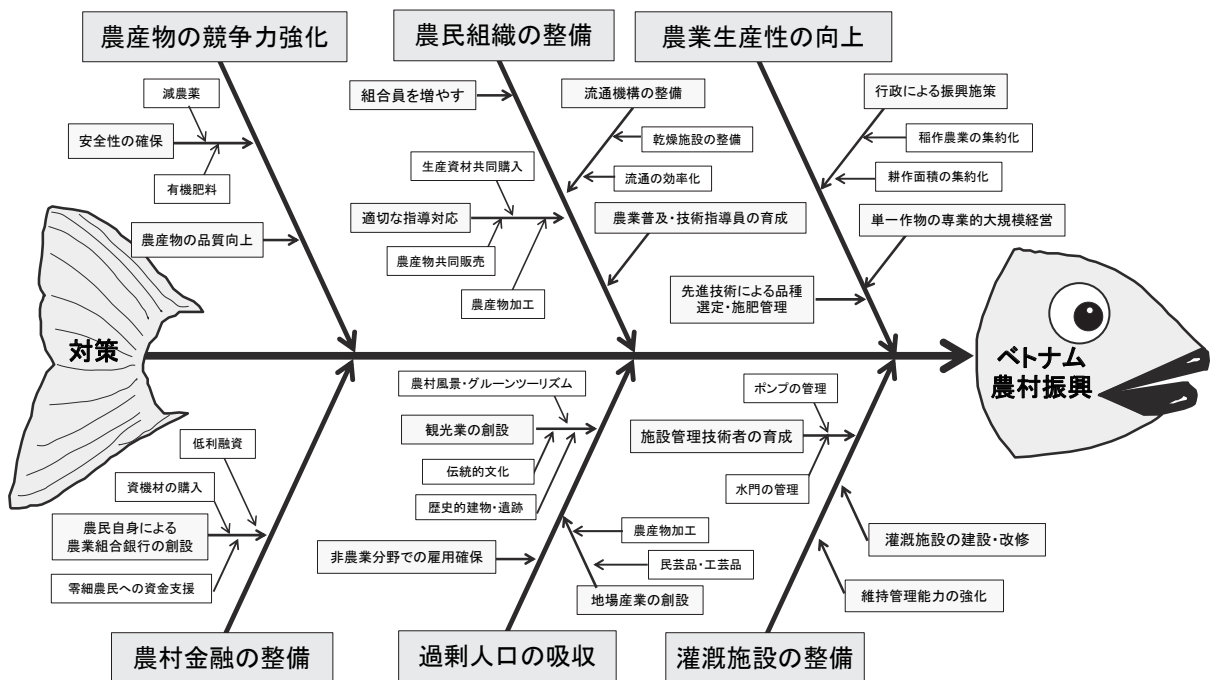


図-3 ベトナム農村の振興に対する特性要因図

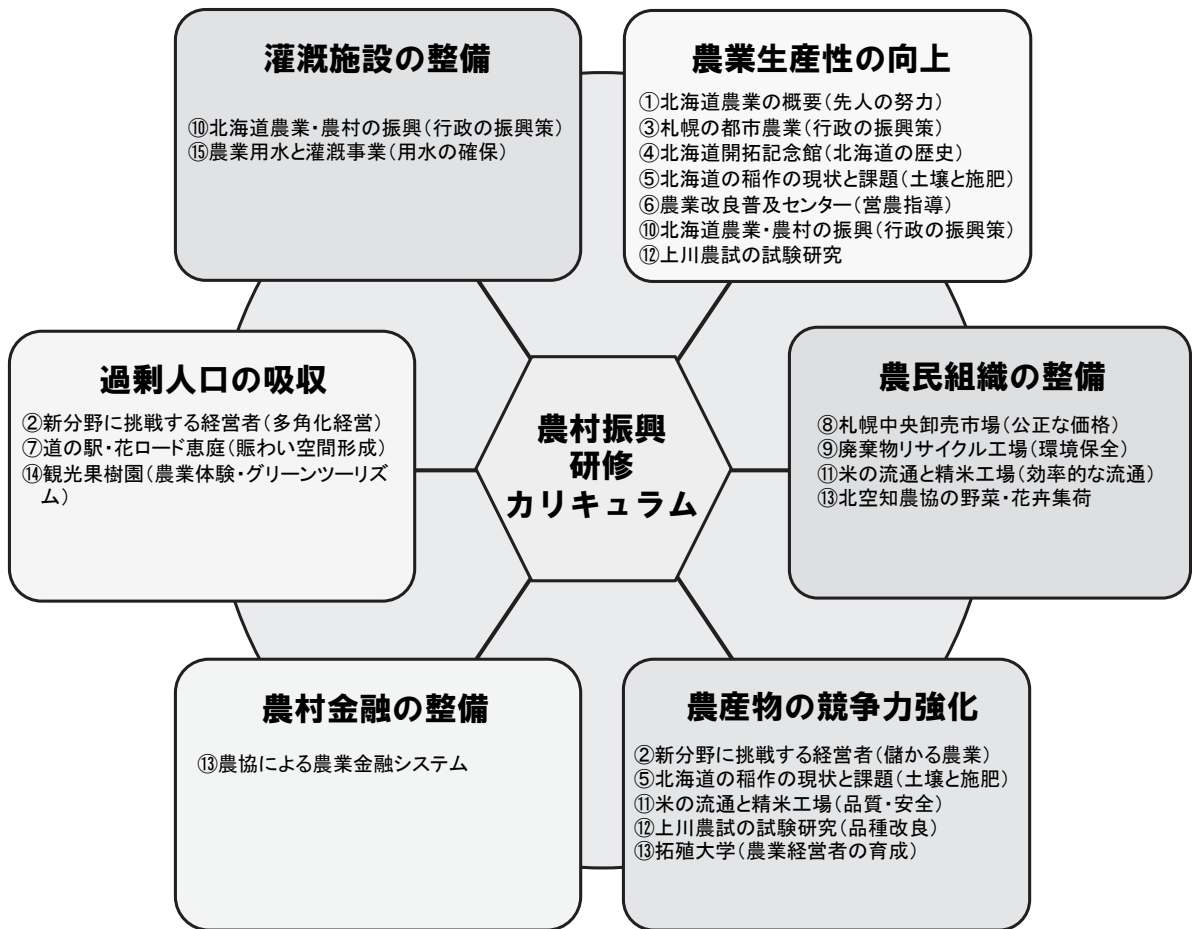


図-4 ベトナム農村振興の特定要因に対する研修カリキュラム

3. 研修業務の公告・応募期限から履行完了までの工程

青年研修業務が公告されたのが4月25日、企画書の提出期限が5月31日で、企画書の作成期間としては36日間があるので、作成期間としては支障がないと言える。

しかし、今年度に限り、この時期はNPO法人の設立認証を受けてから設立登記業務や、HIC業務案内のパンフレット作成、設立記念講演会、パンフレット作成などの準備などに忙殺され、JICA青年研修業務の公告情報の収集や応募準備が後手に回ってしまい、2案件の企画書作成の期間としては相当に厳しい状態であった。

審査決定通知を受けた日が応募締切日から7日後の6月7日、その後、JICA担当者が決

るのが遅かったために初回の打合せ日が7月9日となり、研修プログラムの事前準備作業の履行までの空白期間が32日間にも及んだ。そのため、研修カリキュラム内容の再検討から始まって研修開講日までに履行しなければならない講師派遣要請、研修テキストの原稿待ち、ベトナム語への翻訳、印刷製本の作業に使える日数が83日間と相当に厳しい日程となった。

また、研修閉講日から業務完了報告書と経費精算報告書の提出期限が18日間と非常に短い期間に業務報告書と経費精算報告書の提出が義務付けられているので、厳密に作業を遂行しなければならないハードな業務である。その研修業務の公告日から契約履行まで作業工程を図-5に示すとおりに行った。

業務項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
研修業務の公告	4/25							
企画書提出期限		36日	5/31					
審査決定通知			7日	6/7				
JICA担当者が決まるまでの空白期間			32日	7/9				
初回打合から研修開始までの準備期間				83日				
カリキュラム再検討シラバス作成								
講師派遣依頼								
講義原稿待ち								
講義テキストのベトナム語翻への訳見積・発注						9/2	9/27	
講義テキスト印刷見積・発注								
研修期間						9/30	18日	10/17
業務完了報告書および経費精算報告書の作成・提出								19日
								11/5

図-5 研修業務の公告日から研修履行および業務完了報告書提出までの工程

4. シラバスの作成

講師への講義依頼を要請する際に、講師に研修内容の趣旨を理解させ、研修員にとって学習しやすいように要点をもって講義し、研修員に有意義な知識を提供させる必要がある。また、研修員が受講する際に、研修員の視点から何を修得しなければならないかの達成目標を理解できるようにする必要がある。

そのため、カリキュラムの基本情報、担当講師情報、講義の目的、達成修得目標、スケジュールなどの内容を記述しているシラバスを作成した。そのシラバスの内容をもって、事前に講師にテキストの作成や講義を要請した。

その他にシラバスの効用としては、選定した複数のカリキュラム間にどんな関係があるのかの相互関係の確認や整合性の取れた一貫性を持たせるメリットがある。

5. カリキュラムの選定内容

カリキュラムとして選定した講義には、世

界の先端に行く日本の農業技術、高品質で安定した優良な栽培技術、行政による振興支援施策などの知識を織り込んだ。

加えて、「百聞は一見に如かず」というように、直接肌で実感できる現場体験として、北海道開拓記念館、石狩農業改良普及センター、道の駅「花ロードえにわ」、札幌中央卸売市場、コープさっぽろエコセンター、上川農業試験場、北空知農協の野菜・花卉集荷施設、拓殖大学北海道短期大学、観光果樹園、北空知灌漑施設などの見学、さらに農村での実習体験できる農家のファームステイや深川市民・農民との国際交流による討論会など、できる限り幅広いカリキュラムを織り込んだ。

講義後に講義と関連する見学を配列できるように各研修の受入先と日程調整を行ったが、受入先の都合により希望とおりにプログラム編成を行うことができなかったのは心残りである。

実際に研修を受けた主な研修状況は、以下の写真のとおりである。



オリエンテーションをレクチャーする JICA
担当の小林実課長補佐 2013.10.03



北海道開拓記念館前での記念写真
2013.10.05



札幌市総務局長・国際部長・農政部長に対し表
敬訪問の挨拶をする研修員代表の Ms. GIANG
Thi Dung 2013.10.04



石狩農業改良普及センターの里見次長から
「改良普及センターの仕事と魅力」と題して
講義を受ける研修員 2013.10.07



札幌市農政部の三部英二部長から講義を受
ける真剣な眼差しの研修員 2013.10.04



(有) 中央園芸にて収穫した良品質のキャベ
ツに見入る研修員 2013.10.7



道の駅「花ロード」で農家直売の農産物を見学しながら野菜購入の品定めをしている研修員
201.3.10.7



ホクレンパールライス工場で精米工程の説明を受ける研修員
201.3.10.9



札幌中央卸売市場で「せり」を見学する研修員
201.3.10.8



上川農業試験場・紙谷元一場長の挨拶を受ける研修員
201.3.10.10



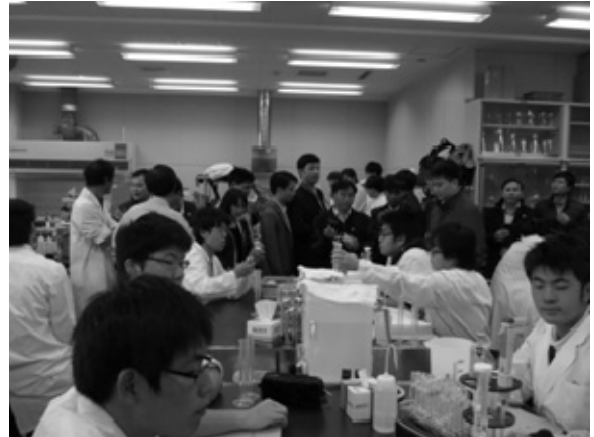
コープさっぽろエコセンターで包装容器や商品カタログなどの紙の圧縮梱包作業を見学する研修員
201.3.10.8



上川農業試験場の圃場を見学する研修員
201.3.10.10



きたそらち元気村の青果・花卉集荷場で「ごぼう」の規格化作業および梱包作業を見学する研修員
201.3.10.10



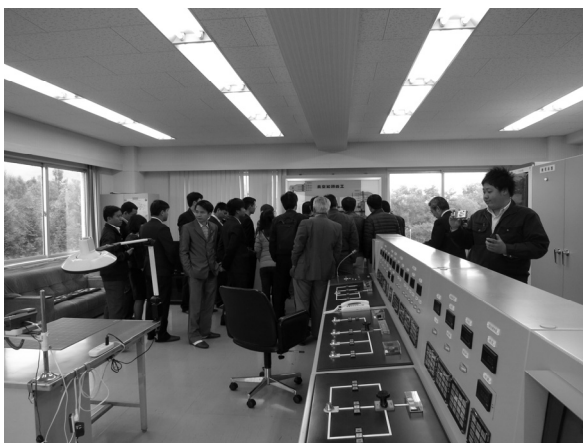
拓殖大学北海道短期大学の学生による土壌分析試験の見学
201.3.10.11



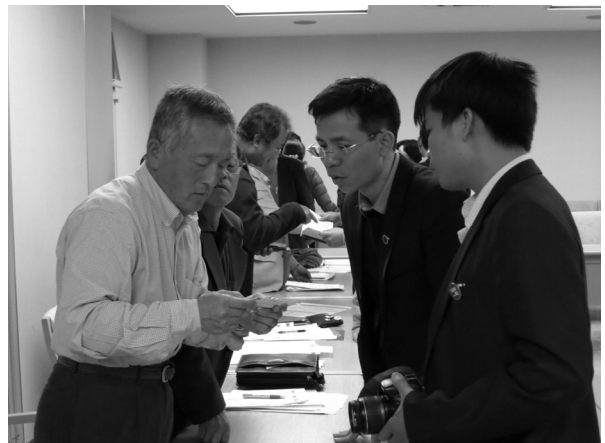
林果樹園で観光果樹園概要を説明する林宏明代表
201.3.10.10



深川市民・農民との国際交流による討論会の状況
2013.10.11



北空知頭首工の管理棟でのゲート操作の説明を受ける研修員
201.3.10.11



渡辺農家にホームステイする研修員の見合いと歓談の様子
2013.10.11

6. 講師の派遣要請と講義テキストの準備

講師の派遣先として、主に農業振興に係る行政施策を司る官庁、品種改良や栽培技術の試験研究を行っている農業試験場、農学部のある大学、農業協同組合、土地改良区などに要請した。

講師派遣要請についてはすべて快諾を得ることができた。しかし、一般的に講師を引き受ける職員は、講義用テキストの作成作業には通常業務の合間に時間を割かなければならないことから、講義用テキストの作成には既存著作物からの引用や転載になる。そのため、HICによる要請シラバスのイメージから、かけ離れた内容で妥協せざるを得なかったため、研修における真の達成目標の趣旨を十分に織り込むことが難しかった。

また、パワーポイントによるプレゼン資料作りは、講師の忙殺を緩和するため、講師に代わって受託機関のHICが作成するケースがかなりあった。受け取った原稿の中には、貼り付け図表が不鮮明もの、紙面からはみ出しているもの、誤字があるものなどがあるため、その作り直しや訂正に相当な手間を要し円滑な業務遂行に支障をきたした。

履行期間中にもっとも難儀したことは、テキスト原稿の提出期限を一か月以内にと厳守でお願いしたが、原稿の集まり具合は余りにかばかしくなかったため何度も催促する状況であった。そのため、テキストのベトナム語翻訳の発注業務に支障をきたした。

7. テキストのベトナム語の翻訳

ベトナム語の翻訳会社を北海道内で探したが、皆目見当たらなかった。そこで、インターネットのWebsiteから数社の翻訳会社をリストアップし、翻訳料金を調べた結果は、日本語1字あたり10円～20円（税別）で、それにレイアウト料金として300円～1,000円が加算されるのが相場であった。また、納期は1か月～3か月であった。

短納期でかつ安い料金表示の翻訳会社に絞って見積依頼を行った。そして、最も安い見積金額の会社に決めたが、予算を超えるため値引き交渉をせざるを得ない苦労が伴った。原稿が集まり次第、順次メール送信して翻訳を依頼したが、原稿の集まりが芳しくないため、研修開講まで間に合うかどうか気があせる毎日であった。

日本語からベトナム語へ翻訳されたテキストに誤字脱字や翻訳ミスがあっても、ベトナム語に精通していない発注者HICとしては、チェックすることができないことが悩みの課題として残った。

8. テキスト印刷製本

テキストの印刷製本はプログラム・オリエンテーション前日の10月2日までテキスト印刷を終えなくてはならない。

ベトナム語の翻訳納期が9月27日となっていることから、印刷製本の期間は正味5日間しかない状況であった。その印刷製本業務を速やかに行うため、事前に日本語のテキスト原稿で数社に概算の見積依頼をかけ、安い見積印刷会社に発注することにした。

当初見積の日本語原稿とベトナム語原稿と比べて印刷枚数などの変更が伴い、それに対する再見積により発注金額を決めて印刷会社に発注した。何れにしても綱渡りのテキスト作成の作業日程であった。

9. 研修実施経費見積書の作成と研修実施経費の支出基準としての業務従事にかかる労務工数

研修実施に必要な経費の見積り積算にあたり、当初はJICAが定めている見積積算フォーマットの存在を知らなかったため、独自のフォーマットで見積書を作成し、無駄な労力を要してしまった。

JICA の見積積算フォーマットによれば、研修プログラム期間は 13 日間となっている。研修業務の従事者配置の JICA 基準として、技術研修期間に従事する従事者の労務工数は、土日を除くと、当コース案件では正味 11 日間となる。

また、研修を実施するための準備作業の事前および事後の従事者のトータル労務工数は 11 人日の規定となっている。

研修業務の事前業務として、日程・カリキュラム作成、シラバスの作成、JICA や関係機関との連絡や調整、講師への講義依頼文書の作成や送付、講師との研修内容の協議、テキストの翻訳・製本、実施経費の見積書作成などがある。

また、事後業務として、講師への謝金や旅費交通費の支払、講師や視察先への礼状の作成や送付、更に業務完了報告書の作成、実施経費の精算報告書の作成などがある。これら盛り沢山の事前・事後業務のすべてを 11 人日で処理することは実際に不可能であり、多くの労務工数を要した。

10. 研修員の対象者

研修員の対象者は、公告の案件概要表（表-3）に記述しているように、「農村振興に携わ

る行政官・農民団体職員」で、「目標は将来のリーダーとして農村振興の課題解決を担う青年層の知識と意識の向上」としている。

参加した 17 名の研修員のほとんどが Youth Union のメンバーであった。「Youth Union」とは、ホーチミン政治団体の 16～30 代の青年連合組織で、中央政府、地方政府および各町村に配置されている公務員である。40 代になると、Youth Union のメンバーを卒業して、農業関係や農業局など各機関に配属され、やがて政治団体（共産党員）となる。いわば、共産党の幹部候補者たちである。

研修員の全員が大学卒で、そのうち大学院博士課程が 1 名、大学院修士課程が 4 名、役職は Youth Union の書記、副書記、次長、課長などの中枢にいる高学歴のリーダーたちである。大学での専攻分野は、政治、経済、経営、建設、水資源、灌漑、食品など多岐にわたっている。

研修員の所在地は、ハノイ近隣地域が 12 名と多く、それ以外はハノイ北西部が 1 名、ハノイよりの南東部が 2 名、ホーチミン近隣が 2 名であった。

研修に参加したベトナム研修員、JICA 丹羽所長、研修監理員および HIC の業務従事者たちの集合写真を下記に添付する。



閉講式の集合写真 2013.10.16

11. 研修参加の意欲・受講態度

カントリーレポートの発表では、ベトナム農村の置かれている位置付けや問題点を的確に捉え、また総括レポートの発表では、北海道農業の発展の神髄を良く理解し把握した上で、ベトナム農業・農村の改善改革すべき事項を的確に捉えた内容であった。

研修員の参加意欲や受講態度は真剣で真面目に聴講し、講義や見学先では熱心にメモを取り、不明点や疑問点については積極的に質問していた。そのことから、研修員たちは参加意欲が高く、良好な受講態度であったと判断している。

カントリーレポートおよび総括レポートを発表するグループ代表の発表状況の写真を以下に添付する。



カントリーレポートを発表する第4グループの Mr. DUONG Dinh Quan

2013.10.03



総括レポートを発表する第一グループの Ms. NGUYEN Thi Chung 2013.10.15

12. 研修員からの研修成果報告

研修員は、優良な日本農業・農村の実情とベトナムと対比しながら、本研修での講義や訪問先で学んで吸収した知識や体験のもとに日本農業の実情を理解していた。そのことを踏まえ、ベトナム農業・農村において改善すべき最大の課題は、農業生産物の流通効率レベルの低さであると指摘していた。また、農業用水確保のための農業水利施設の整備が喫緊の課題であると報告していた。研修員による研修成果の発表要点は以下のとおりである。

- (1) 日本の農業振興に対する行政の役割は明確で、地域特性に適合した施策を行っている。
- (2) 行政の指導のもとに、水産農産物の流通販売システムとしての卸売市場や小売市場が良く整備されている。
- (3) 日本の農業は、機械化が進んでいる。また、土壌改良、品種改良およびハウス栽培など諸々の技術が進んでいる。
- (4) 作業効率や品質が高く、低コストの大量生産を行っている。
- (5) 農家はJAの存在により、農産物の生産から消費までの支援、さらに融資・保険制度などの支援を受けられる良いJA組織が整備されている。
- (6) 農業生産に欠かせない用水確保の農業水利施設が整備されている。ベトナムは、その施設を維持するための農家負担制度を見習うべき制度である。

13. 研修員からの要望

研修員たちから、講義内容、研修先およびファームステイなどについて、出国前に事前に知らせて欲しいとの声が多かった。

ファームステイの実施は、General Information に記述されているが、英文のため英文を不得意とする研修員が、その内容を理解把握できたかどうか疑問である。また、

JICA ベトナム事務所や研修員派遣先のベトナム機関が、派遣される研修員に対し事前に研修情報についてのレクチャーを十分に実施していたかどうかは定かではない。いづれにしても、研修員が研修カリキュラムの内容を把握してない実態から、研修員に対してはきめ細かな情報提供の場を設けて頂きたいものである。

体験学習として、深川での地元農家への体験ファームステイのカリキュラムは、研修において農業理解や国際交流を深める上で重要な要素となった。

言葉の壁が若干あったが、タブレットなどのITを駆使しながら、言葉の障壁を乗り越えた心と心の交流を図ることができた。研修員および受け入れ農家からは、ファームステイの時間が非常に短いという不満が出された。今後は少なくとも2泊3日の農業体験を織り込んで欲しい強い意見があった。今後の研修受託の際には、できる限り余裕のあるファームステイや多くの体験実習を織り込みたいと考えている。

おわりに

農村の貧困問題としての大きな要因は、国民の8割が農村に居住し、労働力で7割を占めることによる資源の賦存量に対して人口が過剰であるということである。そこで、農村の過剰人口を吸収するためには、非農業分野での雇用確保や生計向上の役割を担うことが可能な地域資源を活用した工芸品や農業加工品などの地場産業の創設を推進することが重要である。

研修期間は出入国を含めて18日間と設定されているが、ジェネラルオリエンテーションや土・日曜日などを除くと、実際には正味8日間弱と非常に短い研修期間であった。

その期間内に農村振興という高邁な課題に対して、日本の経験や技術の基礎的理解を付

与することは至難の業である。できれば、日本の農村部における農産物加工や地域資源の利活用の実情について学ぶ機会を確保したかったが、残念ながら研修カリキュラムに織り込むことができなかった。

しかし、その中で可能な限り「農村振興」のテーマに沿った講義や見学を織り込んだ。その結果、評価会や研修員の感想でも分かるとおり、非常に満足すべき成果が得られたと自負している。

最後に、本研修の「ベトナム農村振興コース」の遂行にご支援・ご協力を頂きましたJICA 北海道の丹羽憲昭所長をはじめ、担当の小林実課長補佐に厚く御礼を申し上げます。また、本研修の実施に当たり、北海道庁や札幌市をはじめ、講義や施設見学、ファームステイにご協力を頂いた農家の皆様方に心から謝意を表します。



↑アオザイ美人、↓世界遺産ハロン湾



北海道国際協力フェスタに参加

向井 博二

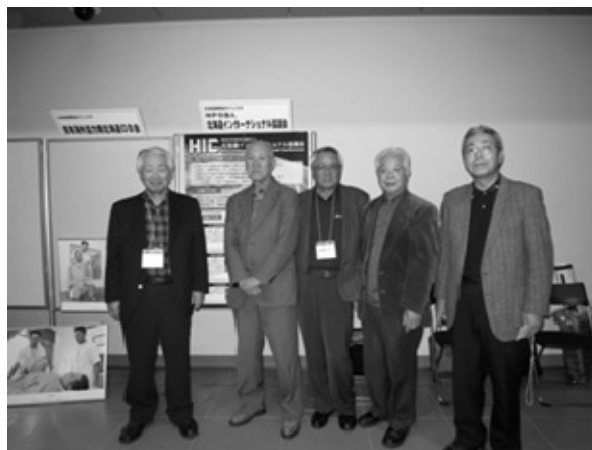
2013年10月20日（日曜日）札幌駅前通り地下道（北3条交差点下）の広場において、北海道NPOネットワーク協議会の主催する「北海道国際協力フェスタ」が開催された。このフェスタはJICAが共催する関係上、北海道インターナショナル協議会「以下：HIC」も参加要請に応じたものである。

開催時間は、午前10時～午後4時までであったが、参加団体が意外に多く、盛況であった。ブースの出展数は24団体があり、パネルの展示数もHICを含め15団体であった。中央の特設のステージでは13団体のパフォーマンスなどが行われ賑わっていた。

HICの主な事業活動の内容と、会員および賛助会員によって構成されていることを来場者に説明し、会員および賛助会員を行ったが、残念ながら即日の勧誘の成果はなかった。

国際協力の活動を通して、地域社会の国際化と活性化に貢献するHICの存在をアピールすることができたと思う。

当日のパネル展の運営には、熊井副理事長はじめ田代、山下、川畑、梅澤、向井のHICの役員が参集した。



来場者にパネル説明をしたHICのメンバー



会場の様子とステージの客席



熱心にパネルを見る来場者



全参加団体によるフィナーレ・コール

HIC ブースのすぐ近くに、唯一高校生のブースがあったので、確かめてみると札幌東高校の生徒たちであった。サークルとして国際協力のボランティア活動を実践しているという。「JOCV を育てる会」の役員である藤森先生の指導力と国際協力の経験の影響によるもので、部員 28 名が参集しており、その活動は多彩なものであった。

彼らに話をかけてみたところ、時折 JICA を訪問しては、国際協力についての考え方や行動の仕方を学ぶ活動をしているという。



その主な活動の内容は、以下のとおりであった。

1. 高校ユネスコ大会への出席
2. ユネスコ街頭募金への参加
3. 書き損じのハガキの回収活動
4. 東日本大震災の支援募金の参加など

国内の国際協力にかかわるボランティア活動は、未来ある高校生たちの人間形成の場として、おおいに好感の持てるものであった。